

東邦大学大学院医学研究科 先端医科学研究センター  
組織修復・病態制御学  
一般社団法人日本創傷治癒学会 理事長

赤坂 喜清

第1回日本創傷治癒学会は1971年に慶應義塾大学の耳鼻咽喉科鈴木安恒教授により研究会として開催されました。その後、慶應義塾大学の外科学教室に事務所が置かれ、阿部令彦教授の理事長のもと学術集会へと発展してきました。第1回創傷治癒研究会では鈴木安恒教授が冒頭で「創傷治癒というも問題は外科だけに限らず、非常に重要な問題だと思いますが、わりあいに行っていることが少ないので、(中略)、あまりその方に注意を向ける暇がなかった」と書いています。それから50年経過した現在でも創傷治癒の問題は大きな課題として取り扱われることなく、医学生教育の現場でも個々の疾患の講義に比べて創傷治癒を論じる授業時間はあまり多くありません。

創傷治癒は、原始人が狩猟で負った傷口を治すために始まった、太古の時代から継続する普遍的な学問です。戦争で不幸にも負傷した兵士を目の前にして出血を防ぎ感染症が合併しないよう早期に創部を閉鎖させることは極めて重要な課題でした。時代の進歩とともに創傷治癒の問題点は改善されてきました。しかしどの時代でも現象は変わらないものの、創傷治癒のメカニズムは解明されていない点が多くみられます。特に細胞群が一定の調和を保ちながら出現・消退を繰り返して規則正しく治癒が進行するメカニズムは不明です。我々にとって馴染み深い「線維芽細胞」においても、治癒過程で動員されるメカニズムは未だ不明です。

これまで50年間を振り返ると、本学会で活躍された先輩たちは「消化管吻合術再建」「難治性潰瘍治癒」の問題を精力的に解析してきました。種々のサイトカインがクローニングされると、いち早くサイトカインの治癒効果を基礎レベルで検討し、ヒト臨床応用の有効性を米国創傷治癒学会と連携して海外に発信してきました。また近年の幹細胞学の進歩に伴い、組織幹細胞を用いた治癒効果を組織工学で検討しヒト臨床応用を目指しました。さらに高齢化社会の訪れとともに、重要な課題である「褥瘡」の治療法を創傷看護の立場から検討し、また下肢の糖尿病性潰瘍においてはチーム医療による実践法を報告してきました。このように、本学会は時代が求める重要な創傷治癒の問題を外科学、形成外科学、皮膚科学、看護学と基礎分野の先生方が「基礎と臨床」の融合を目指し、垣根を越えた討論から有効な治癒方法の開発に取り組んできました。

組織修復の破綻によって臓器は機能不全に陥り、やがて重篤な疾患の発症に至りますが、そのメカニズムには不明な点が多く残されています。



NEWS  
LETTER

日本創傷治癒学会  
2020.07  
No.118

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

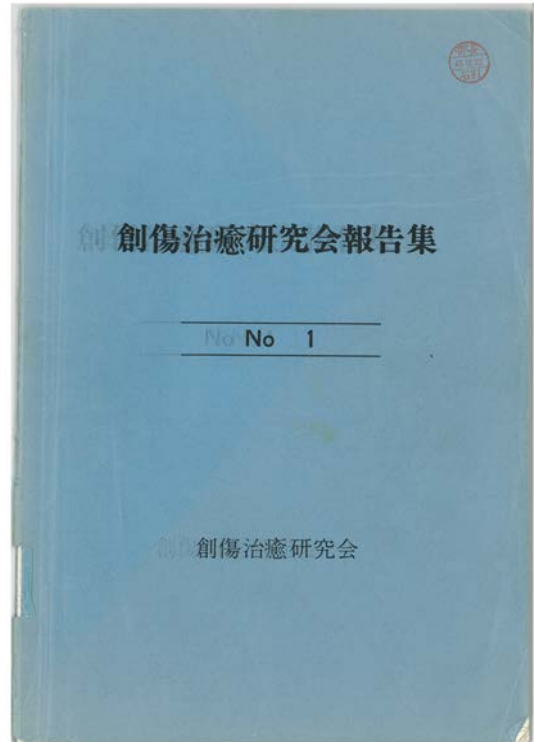
tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL : <http://www.jswh.com>

最近、米国や日本では「生体組織の修復機構の生命現象」を解明する研究が注目されています。どんな疾患でも傷害を受けた臓器は癒痕形成あるいは再生の両輪で修復が進行します。再生よりも癒痕形成が主体のヒト臓器では、どの臓器でも癒痕形成が最終的に辿る経路となっています。したがって今後、癒痕形成のメカニズム解明と癒痕抑制法の開発は本学会が目指す「基礎と臨床」の融合による、ヒトの様々な疾患における臓器傷害の機能不全を解消する新たな治療法開発に貢献できると考えています。



第1回創傷治癒研究会報告集の表紙 ▶  
(昭和46年7月26日)

## WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume28 Issue No.4に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE> ⇒ <Author Guidelines>と進んでいただくか、以下のURLへアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿（要ログイン）となっております。

### “Validity of DMIST for monitoring healing of diabetic foot ulcers”, (*Wound Repair and Regeneration*, 28:4, P.539 - 546

- |           |                                    |
|-----------|------------------------------------|
| 大江 真琴 先生  | (金沢大学 医薬保健研究域保健学系)                 |
| 竹原 君江 先生  | (名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻)             |
| 仲上 豪二郎 先生 | (東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野) |
| 須釜 淳子 先生  | (金沢大学医薬保健研究域 保健学系臨床実践看護学講座)        |
| 真田 弘美 先生  | (東京大学大学院医学系研究科 老年看護学/創傷看護学分野)      |





# 漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、  
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治療力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。  
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

## 自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】 0120-329-970 【患者様・一般のお客様】 0120-329-930

受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く)

(2019年5月制作) RSCA801-D

KCI Healing by design

**43%\***  
more granulation

Lossing MC, et al. Negative Pressure Wound Therapy With Controlled Saline Instillation (NPWT): Dressing Properties and Granulation Response In Vivo. Wounds 2011;23:309-319.

Group	Granulation thickness (mm)
NPWT / ROCF-G (n=12 per group)	~3.2
NPWT / ROCF-V (n=12 per group)	~4.8

( $P > 0.05$ )

### V.A.C. VERAFLOR® Therapy

### V.A.C.® Therapy

V.A.C.ULTA® 治療システム

販売名: V.A.C. Ultra治療システム  
医療機器承認番号: 22900BZX00204000

NOTE: Specific indications, contraindications, warnings, precautions and safety information exist for KCI products and therapies. Please consult a clinician and product instructions for use prior to application.  
©2015, 2018 KCI Licensing, Inc. All rights reserved. Unless otherwise designated, all trademarks are proprietary to KCI Licensing, Inc., its affiliates and/or licensors. PRA-PM-JP-00012 (05/18)  
®はKCIの登録商標です。

製造販売元  
ケーシーアイ株式会社  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル5F  
フリーダイヤル: 0120-897-706  
http://www.kcij.com

AN ACELITY COMPANY